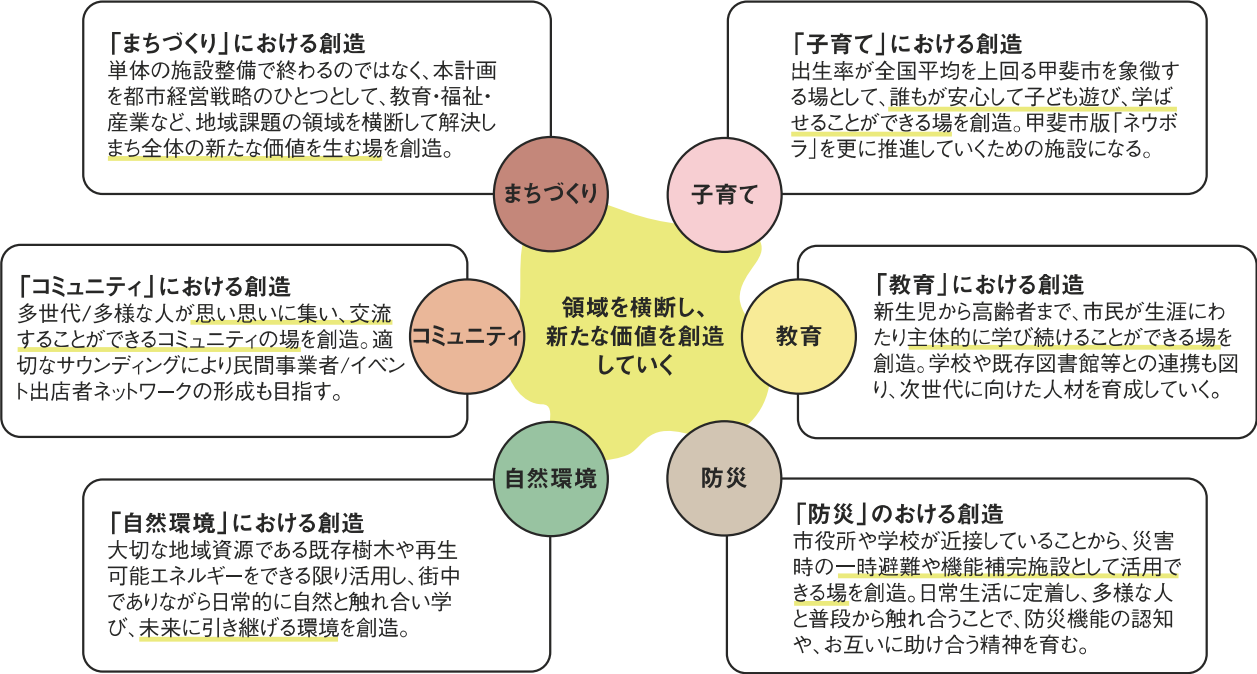


(1) 計画説明書（公園部・建築物）

1.空間活用コンセプト

基本計画で策定された「次世代へつなぐ創造の森」の実現に向け「まちづくり」「コミュニティ」「子育て」「教育」など様々な領域を横断しながら地域の新たな魅力や価値を生み出す創造拠点を整備。
子どもを中心としながらも「市民の誰もが気軽に訪れ、生活の質向上に寄り添う公園」を目指す。



2.与条件整理

基本計画及び、市へのヒアリング等を踏まえた基本プランの考え方を確認し、実現に向けた課題を整理するとともに、導入機能について検討した。

①公園部

基本計画での配置案に対し与件や今後の検討課題を整理した【別紙1】参照
なお、駐車/駐輪場については下記のように整理した。

分類	記号	項目	数量	単位	式	備考/出典
来園者数	A	年間目標来園者数	127,750	人		公園+複合施設の来園者想定
	B	開園日数	365	日		想定（公園は休日なし）
	C	平均来園者	350	人/日	A/B	施設+公園利用想定者数からの想定
	D	平日・休日の比率	平日1:休日1.5			休日は来場者1.5倍と想定
	E	平日平均来園者数	350	人/日	C*1	
	F	休日平均来園者数	550	人/日	≒ C*1.5	
	G	ピーク時の集中率	25	%		12時間営業/平均3時間滞在と想定し設定
	H	ピーク時の来館者数（平日）	90		≒ E*G	
	I	ピーク時の来館者数（休日）	140		≒ F*G	
駐車場	J	来館者の自動車利用率	60	%		山梨県甲府都市圏総合交通体系調査報告書(06 年)を参考に設定
	K	同乗者数	1.5	人		家族や友人と訪れることを想定し設定
	L	必要駐車台数（休日ピーク時）	55		≒ I*J/K	
駐輪場	M	来館者の自転車利用率	30	%		山梨県甲府都市圏総合交通体系調査報告書(06 年)を参考に設定
	N	必要駐輪台数（休日ピーク時）	40		≒ I*M	

※車椅子利用者用駐車場は『都市公園の移動円滑化整備ガイドライン』を参考に駐車台数が200台以下の場合には1/50を乗じて得た数以上とする

②建築物

公園内に整備を計画する施設については、旧緑化センターの機能を継承した「緑の体験学習」等を実施することから、都市公園法上の教養施設（体験学習施設）として整備することが適している。

本調査では、当該施設において「子育て支援」機能を複合的に備えた事業展開に取り組むことから『子育て支援複合施設（体験学習施設）』と記すこととする。

当該施設において実施を想定する事業をもとに、市へのヒアリングやサウンディングを通じ、必要となる諸室や与件、今後の検討課題等を整理した。

なお、当該施設以外に設置を計画するトイレ、倉庫、屋根付き広場等についての与件や課題については、【別紙1】に記す。

施設名	広さ (㎡) ※基本計画時		広さ (㎡)	必要とする機能 利用想定者数など	内容	空間構成	検討課題
託児スペース	50	→	50	◇託児スペース ・ほふくスペース ・手洗い場 ・トイレ ※床暖房完備 定員最大:10名程度を想定	○市内在住の生後6か月から就学前の子どもを対象とした一時預かり事業（有料想定） ○ファミリー・サポート・センター事業とは異なり気軽に預けられる場所を想定	○兄弟を一緒に預けることを考慮すると子育て広場と同じフロアが望ましい ○屋外との繋がりが感じられると良い	○運営面では一時預かりの際は事前面談を行うことが理想のため、利便性と運営面両面での検討が必要 ○サテライトカフェ側にも託児スペース（またはキッズスペース）が必要かは検討が必要
子育てひろば	200	→	200	◇子育て遊び場 ・ミニキッチン ・授乳室 ・親子トイレ ※床暖房完備 利用者は30人～50人想定	○市内在住の乳幼児が自由に遊べるスペース（無料想定） ○地域子育て支援拠点事業（子育て親子の交流の場の提供と交流促進）の場 ○利用者支援事業〔基本型〕（保育士、社会福祉士等による相談業務）を実施想定	○兄弟を一緒に預けることを考慮すると託児スペースと同じフロアが望ましい ○屋外との繋がりが感じられると良い ○活発なスペースと静かなスペース等エリア設定を想定	○竜王子育てひろばが移転予定であり、また本施設整備により集客範囲が広がることが想定されるため、想定利用者に応じた面積設定が重要
多目的室 (小)	30	→	30	◇相談スペース ・15㎡×2部屋	○緑の体験学習教室や各種講座を実施 ○施設に遊びに来た方が、子育ての悩みなどの相談ができるスペース。 ○相談会のような事業も開催想定 ○相談室として利用するほか、イベント時の控室、打合せ室として利用想定	○15m2×2部屋を想定 ○4人席+ベビーベッドや子供が遊べるスペースを有する部屋を想定 ○遊びのなかで子育て家庭から日常的に気軽に相談を受けることを可能にするため、子育て広場と近接した配置が望ましいと考える	○相談者が声の漏れや周りからの視線が気にならないよう、防音性や配置検討が必要
多目的室 (中)	75	→	75	◇ふれあいスペース ・和室やクッションフロア等 ・手洗い場 ※床暖房完備 イベント時は～30人程度を想定	○緑の体験学習教室や各種講座を実施 ○現在竜王ふれあい館及び北部公民館で実施している、げんき甲斐のイベント等を開催のほか、マタニティクラスやママババクラス、離乳食教室、ベビーマッサージ教室など、様々なイベントを実施想定	○マットや絨毯、畳等を敷き子どもが寝転ぶことができる部屋とする。 ○部屋を2つに仕切り、各イベント毎にフレキシブルに利用できる部屋とする。	○床の素材や空間の仕切り方などについて検討が必要
多目的室 (大)	150	→	150～200	◇木工教室機能 ・電動のこぎりなどの工作機器の利用を想定 イベント時は40名程度の利用を想定	○緑の体験学習教室や各種講座を実施 ○竜王ふれあい館で実施している木工教室などが開催可能な体験学習とする。 ○また可能であれば食育教室を開催可能なスペースとしても検討。子どもを中心に食育への関心を高めるため、親子で一緒に食材に触れ調理実習を行う。	○水回りが収納可能で工作台と一体となる机を導入できれば、面積の圧縮も可能と思われる。 ○イベント毎にフレキシブルに対応できるよう、部屋を2～3つに仕切る可能性もあり。	○具体的な運営形態も含め、電動のこぎりや調理台等の機器を置いておく部屋にするのか、フリースペースとするのか、また面積等の具体的な設定が必要（多目的ホールとの統合を前提とした面積設定が必要）

ボランティア 控室	50	→	50	◇休憩スペース ・机、イス ・収納スペース ・ミニキッチン 最大10人程度を想定	○イベントやひろばの運営等に協力が必要なボランティアの控室を設置。 ○ボランティアの方の研修等を定期的に実施し、ボランティアの質の向上とボランティア団体の育成を図る	○事務室とは別途設置する ○部屋の使用がないときは、市内のボランティア団体や子育てサークルの活動スペースとして利用可能とする	○施設内のイベントだけでなく、屋外イベントのボランティアの控室も必要となれば、さらに大きな控室が必要
屋内遊戯 スペース	1000	→	750～1000	◇遊戯ひろば ・大型遊具 ・インクルーシブ遊具 ・デジタル遊具 ◇スタッフルーム 1日平均160人の利用を見込む (近隣施設のにらちび、お城ランドの利用者数から算出)	○雨の日でも体を使って学び、遊ぶことのできる大型遊具を兼ね備えた施設とし、遊具、内装に県産材を使用するなど特徴のある造りとし、インクルーシブな遊具を設置	○運営主体が異なる場合を想定し事務室とは別途スタッフルームを設ける ○多様な遊び場を想定し、静かな空間とアクティブな空間などエリア分けを設ける	○遊具の維持管理/運営における安全管理のため、有料化も含め検討が必要（有料となる場合は他エリアとの導線やセキュリティの整理が必要） ○人口規模や利用想定者数と比べて面積が大きいため、運営携帯も含め詳細検討が必要である。
児童書コーナー	500	→	1万冊程度 (300㎡～500㎡程度)	◇絵本へ特化した空間を想定 (運営される事業者が、その他の児童書や育児見本が必要というのであれば設置も検討)	○図書の貸出を行わず、来図者が館内で読書、読み聞かせに参加することを想定 ○まとまった部屋ではなく建物内に点在した空間も可 →そのため面積ではなく蔵書数を基準とする。	○秘密基地のような小部屋や、読み聞かせできるオープンスペースなどがあり楽しく本に触れられる場所とする。 ○子育てひろばと隣接し、遊びや読み聞かせが一体的に行える空間が好ましい	○施設内に点在する場合の本の管理やセキュリティ面の検討が必要
交流・休憩・オープンスペース	200	→	200	◇カフェ ◇フリースペース ・マルシェや展示が行えるスペース等	○建物のエントランス空間も兼ねたオープンスペース ○フレキシブルな利用を促せる空間を想定	○飲食機能がある場合は屋外側へもテイクアウトカウンターなどがあると良い	○飲食機能が入る場合は公園側のカフェ・レストランとの棲み分けが必要
多目的ホール	200	→	0	基本計画時には想定していたが、多目的室（大）と同様の機能であるため統合する			
事務室	50	→	60	◇事務スペース ・IP電話、PC等 ・机、イス等の備品 ・収納スペース ・職員用ミニキッチン 10名程度の人数を想定	○各事業を実施する職員が作業する事務スペース	○施設全体に目が行き届きやすい場所に配置する	○施設の運営体制をもとに具体的な面積設定をする必要がある
共用部	495	→	450～635	・男女トイレ/多目的トイレ/授乳室　・階段/EV/廊下　・倉庫など （多目的ホールを統合するため、共用部の増減あり）			
合計	3000	→	2315～3000				

※上記面積や機能はあくまで目安であり、今後の運営体制や空間検討、整備費の調整と併せて精査していく必要がある

Open A

株式会社オープン・エー
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-15-7F
一級建築士事務所 東京都知事登録第53091号

Project.
（仮称）篠原地区公園 設計基礎調査

Plan No.

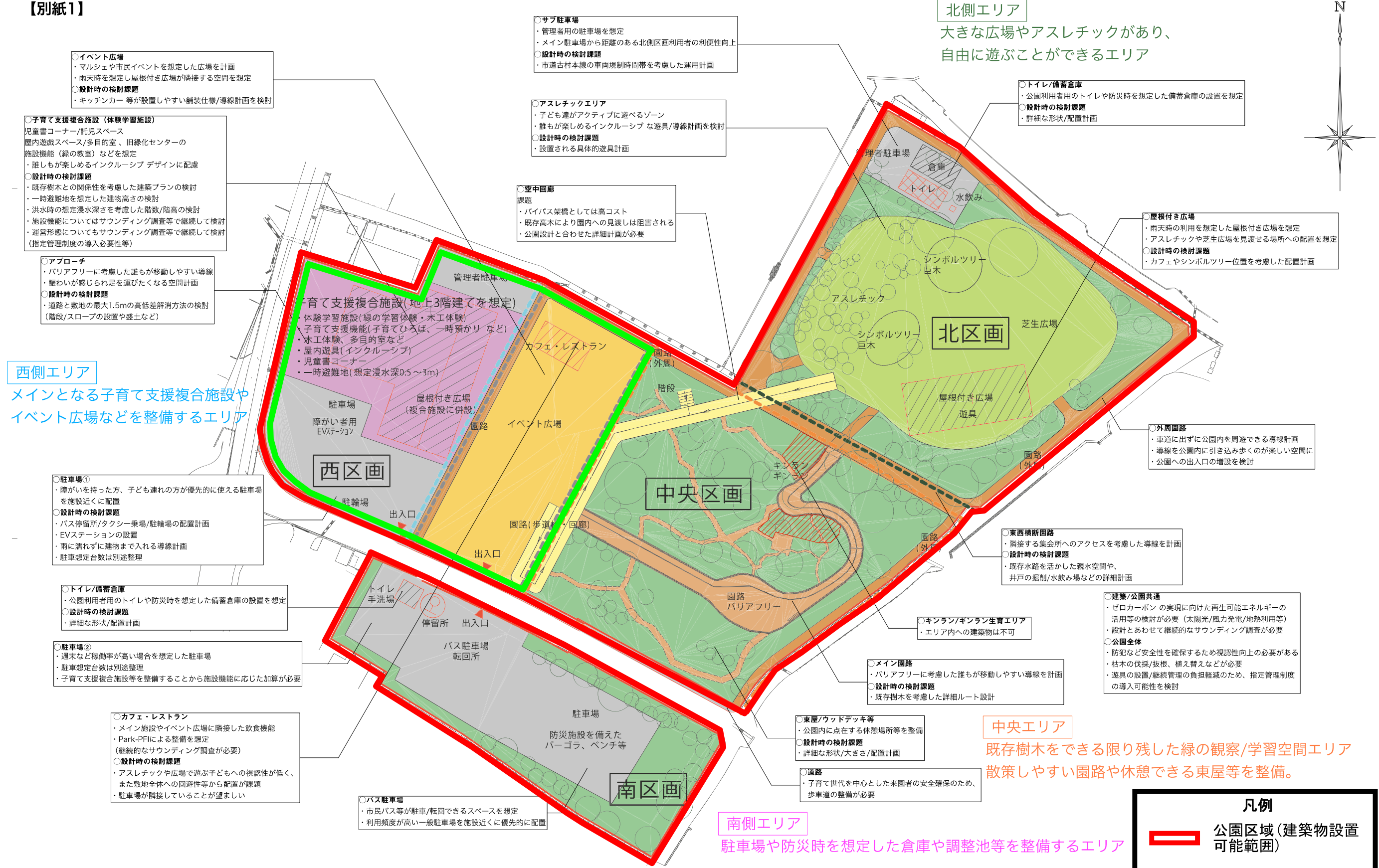
Scale.

Date.

2023.1.31

No.

【別紙1】

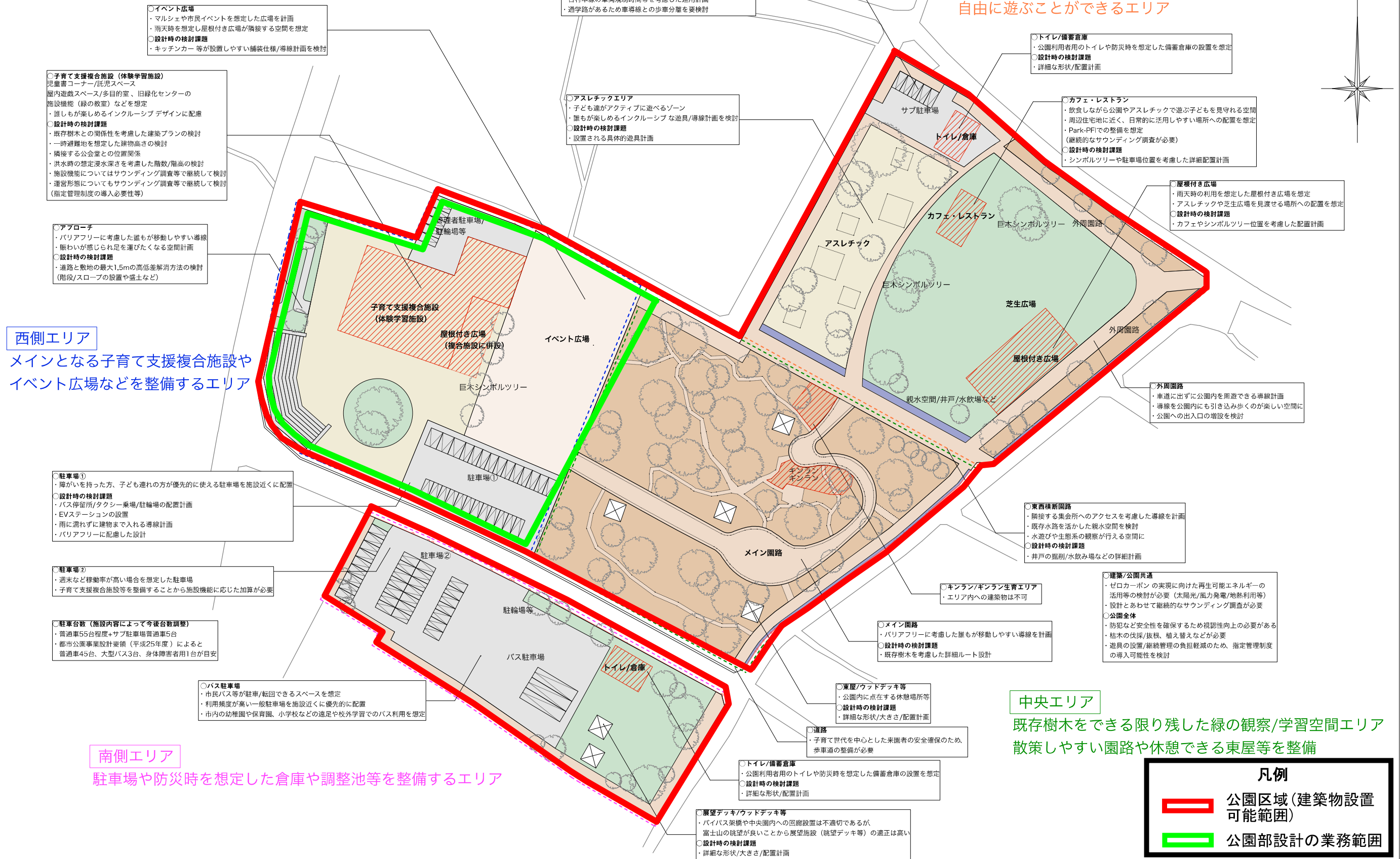


凡例

公園区域（建築物設置可能範囲）

公園部設計の業務範囲

(2) 平面計画図（公園部・建築物）
（仮称）篠原地区公園整備 配置イメージ（案）



Open A

株式会社オープン・エー
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-15-7F
一級建築士事務所 東京都知事登録第53091号

Project.
（仮称）篠原地区公園 設計基礎調査

Plan No.
平面計画図（公園部、建築部）

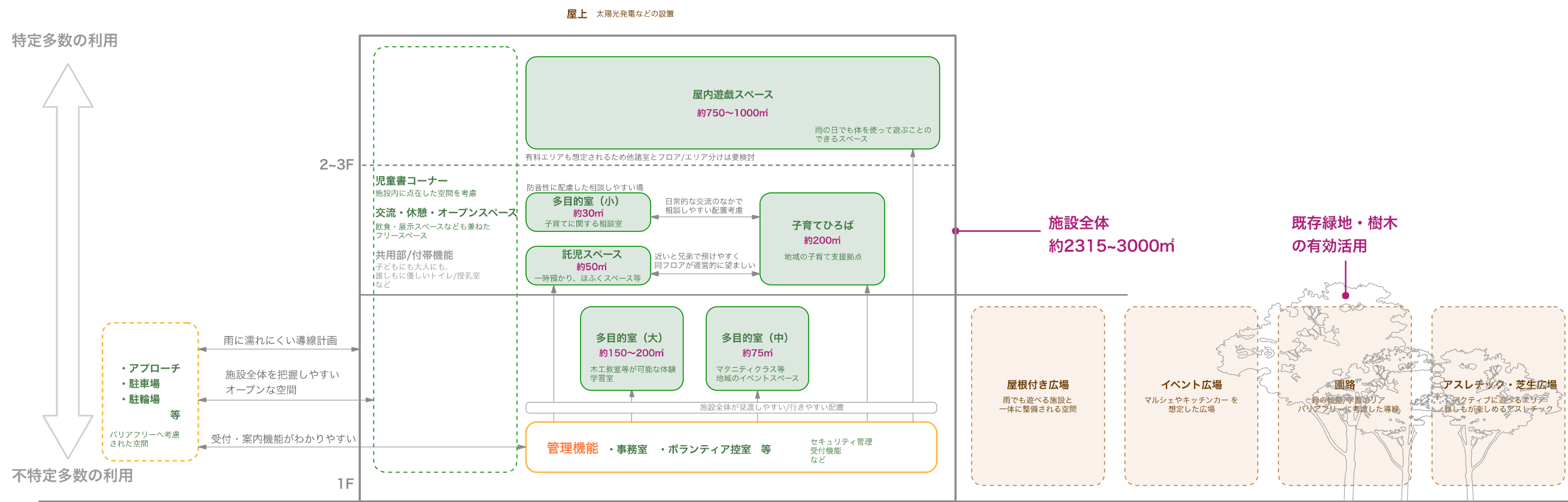
Scale.
1/1000

Date.
2023.1.31

No.
00

(3) 断面計画図（建築物）

- 下記の要点より子育て支援複合施設（体験学習施設）の断面ダイアグラムを整理した
- ・1Fは不特定の方が気軽に利用できる空間とし、ギャラリー等の展示や、各種体験学習会（ワークショップ）時の集客などを考慮しオープンスペースや多目的室（大・中）等の配置を想定
 - ・2F以上は、特に子ども連れの利用者が安心して落ち着いて利用できる託児スペースや子育てひろば等の配置を想定
 - ・交流・オープンスペースや児童書コーナーは施設全体に点在することを想定
 - ・屋内遊戯スペースは有料とする場合は他エリアとの導線やセキュリティの整理が必要なため他諸室と階やエリアを分けた配置を想定
 - ・管理/受付機能を有する事務室は視認性や施設全体への視線の見渡し、導線を考慮した配置が望ましい
 - ・駐車場から施設へのアプローチはバリアフリーや雨へ配慮された導線計画が望ましい
 - ・屋根付き広場を併設して設け、雨天時でも利用できる屋外と一体の空間を設けることが望ましい
 - ・階層について2階～3階建が想定される。施設で実施する事業と併せ、適切な階数については検討が必要



(4) イメージパース
『イベント広場』



(4) イメージパース
『アスレチック』



(4) イメージパース
『子育てひろば等』



(4) イメージパース
『屋内遊戯スペース』



【別紙2】
公共空間へのDX/IoT活用事例調査

コロナ禍を機に「都市のオープンスペース」と「オンライン化」の両方が求められる昨今の情勢を踏まえ、自然の中で健やかに過ごしながら、テクノロジーにより新たな空間アクティビティの促進や効率化を促す事例をリサーチした。

ジャンル	サービス/名称	活用事例/場所	活用方法
サービスの向上	リアルタイム窓口情報	豊島区	庁舎窓口の発券・呼出システムと連携し、受付待ち人数の確認や一部窓口の事前受付予約等ができる
	テレビ電話による多言語通訳サービス	豊島区	テレビ電話・AIを活用した多言語通訳サービスを利用できるタブレット端末を窓口を設置
	オンライン相談	豊島区	区民相談コーナーの専門相談において、オンライン相談を実施
	視覚障害者向け移動支援アプリ「shikAI」	豊島区	点字（警告）ブロックに設置したQRコードを読み取ると、現地から目的地までルートを導き出し、音声で進む方向や距離を伝える
	地域資源情報データベース「Ayamu」	豊島区	区内で行われているサークル・ボランティア等情報について総合相談センターの間で共有し、利用者へいつでも情報提供できる
	育児を応援する行政サービスガイド「ママフレ」	豊島区	子育てに関する「行政サービス」、「相談先」、「施設及び窓口」、「緊急連絡先」などの情報を分かりやすく整理し、簡単に検索が出来る
	公園アプリ「PARKFUL」	豊島区	区内の小規模公園の情報をアプリ「PARKFUL」により可視化、発信
	ごみ拾いSNSアプリ「ピリカ」	豊島区	ごみを拾い、その様子を撮影し、SNS上に投稿。参加者同士でモチベーション維持
	MAP型混雑探知システム「VACAN（バカン）」	豊島区	災害が発生し救援センターを立ち上げたときに、開設状況や混雑状況をQRコードから携帯電話等で確認することができる
	デジタルでつながる市役所	仙台市	オンラインでの子育て相談、市民対応にモバイル端末の活用
	UDトーク	コネクテック株式会社	音声認識によって話し言葉が文字に変換される、会話が見えるアプリ
	キャッシュレス決済サービス	鹿児島銀行	会員向けの独自の決済サービス
	屋外デジタルサイネージ	日光国立公園	大型のタッチパネルやタブレットによる施設の概要紹介、交通手段の案内、公園内のアクティビティやガイドツアーの情報提供など
	スマートベンチ「卓憩」	風鶏セコロ	屋外ベンチでのwi-fi接続、ワイヤレス充電、防犯カメラ設置など
	スマートロッカー「SmaCha」	株式会社SGI	生体認証型のキャッシュレスロッカー
	映像授業サービス	トライグループ	スマホやタブレット端末で時間・場所を問わずに受けたい授業を自由に視聴できる
	配車アプリ	Uber/日本交通など	アプリを活用した効率的な配車が可能に
維持管理の質向上/効率化	セルフオーダー/キャッシュレス店舗	Shake Shack	決済をキャッシュレス化し人件費の削減などにつなげる
	スマホアプリによる顧客情報データの一元管理	マロニエゲート	個人ごとに最適なタイミングで再来訪を促すことが可能に
	防犯カメラ映像のAI解析	久屋大通公園	防犯や事故防止に活用
	ドローンを使った公園管理	株式会社JDRONE	ドローンを利用した公園管理（空撮による植生状況調査、空撮による公園環境の把握、空からのデータをスマートフォンで表示など）
	スマートライト	けいはんな記念公園(京都府)	消費電力データの収集による効率的な照明環境の実現
	ネットワーク防犯カメラ	けいはんな記念公園(京都府)	映像から転倒や接触等のトラブルを検知
	環境センサー	けいはんな記念公園(京都府)	温度や湿度などの環境データを取得できる
	スマート緑化維持管理システム「Air Rain」	株式会社バニーホップ	IoT化で造園業務の負担を軽減しながら、植裁品質、節水を同時に実現
	パークスマートチャレンジ	平城宮跡歴史公園(奈良県)	自動運転の次世代モビリティを使った園内周遊やドローンによる施設点検など
	入退室管理システム	各社企業	開放エリアとの境界をセキュリティゲートを用いてICカード等で入退室管理を行う
	来客分析サービス「Vieureka」	panasonic	人数カウント、属性分析（年齢・性別）などの分析や入退室管理が可能
	人感センサーによる照明/空調等の管理	メーカー各社	人物感知により作動する器具設置による省エネ効果
	太陽光発電の見える化	武蔵野市	建物の屋上に太陽光発電パネルを設置し、正面玄関ではモニターで発電量の見える化
	BEMS	武蔵野市	建物のどこでどのくらい電気が使用されているか把握するためのシステム

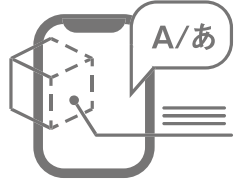
活用アイデア



- ・生体認証による入退場管理
- ・人物感知による照明/空調管理



- ・QRコードによるデータ取得
- ・アプリ利用による施設や本の貸出予約



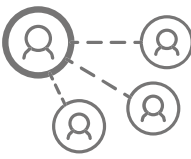
- ・AR活用による体験の提供
- ・情報等の多言語翻訳



- ・エネルギー利用状況のマネジメント
- ・遊具利用状況のデータ収集
- ・リアルタイムの土壌水分、肥料分析



- ・パネルディスプレイによる情報更新
- ・カフェ/遊具/駐車場等の混雑状況発信



- ・図書館や子育て関連施設との連携（本の貸出しやテレビ電話相談など）

【別紙3】-①

ZEB化へ向けた課題整理等

①（仮）カーボンニュートラルパークへの取り組み

甲斐市は、2050年二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」宣言し、その実現に向けた取り組みを推進している。

また、令和5年1月現在、脱炭素先行地域の採択を目指し、計画提案書の策定を進めているところである。

計画素案において、竜王駅～市役所～（仮称）篠原地区公園を繋ぐ地域を、脱炭素先行エリアの1つに定めている。

（仮称）篠原地区公園は、旧山梨県緑化センター跡地の既存樹木をCO2吸収源として活用するほか、建物・公園部においても脱炭素化を図る（仮）カーボンニュートラルパークとしての整備に取り組むものとする。

②ZEBとは

Net Zero EnergyBuilding（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のことを指す。

人々が活動する限りエネルギー消費量を完全にゼロにすることはできないが、省エネによって消費エネルギーを減らし、創エネによってエネルギーをつくることで、エネルギー消費量を正味（ネット）でゼロにすることを目指す。

③ZEBのメリット

「ZEB」にするメリットは、一般的に下記の4点が挙げられる。

(1) 光熱費の削減

エネルギー消費量を減らし、光熱費を大きく抑えることができる。昨今の原油や天然ガスの価格が高騰している状況であっても、その影響を小さくすることが可能。

(2) 不動産価値の向上が期待できる

地球温暖化問題への対処が課題となっている昨今、「ZEB」実現は温室効果ガスの大幅な削減にも繋がり、一般的な建築物に比べて不動産価値の向上が期待できる。

(3) 快適さを維持したエコ貢献

省エネルギー性能を高め、自然エネルギーを上手に活用して空調設備などの制御を行う「ZEB」、快適さを損なわずに温室効果ガスの削減に貢献することが可能。

(4) 災害時のエネルギー活用

地震や電力不足による停電が起きた場合であっても、導入した再生可能エネルギーの一時的な使用が可能となる。

④ZEBの種類



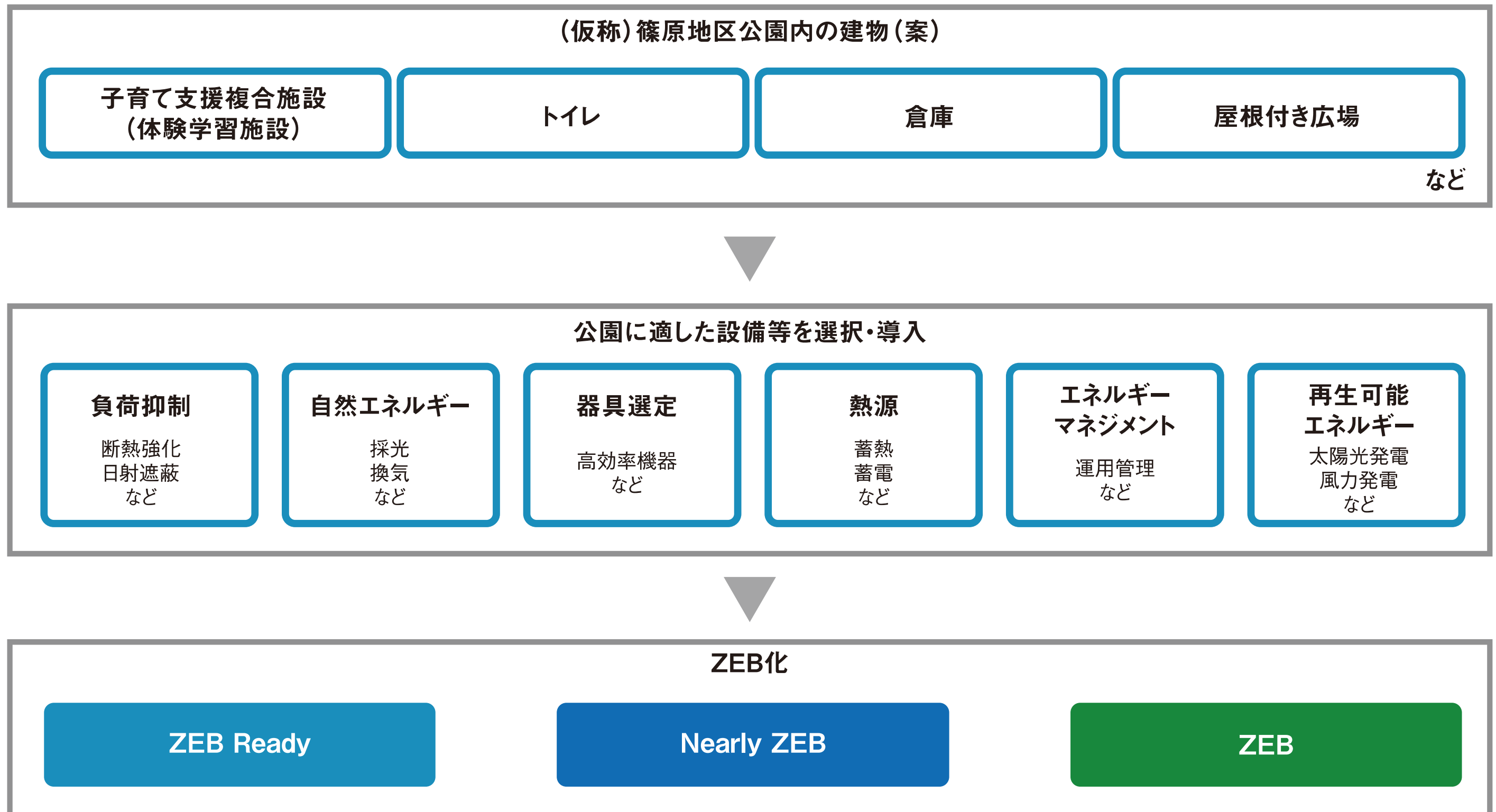
【別紙3】 -②

ZEB化へ向けた課題整理等（例）

本公園整備において導入可能性のある設備等について整理を行った。

前ページでまとめた通り、ZEB Readyの実現には省エネによる一次エネルギーの削減、Nearly ZEBまたはZEBの実現には省エネと創エネによる75～100%以上の一次エネルギー削減が必要である。

	分類1	分類2	分類4	備考	今後の課題
省エネ	負荷抑制	断熱強化	屋根の断熱仕様	日射負荷の抑制/エネルギーロス対策	建築設計時に素材や厚み等の必要詳細検討が必要
			外壁の断熱仕様	同上	建築設計時に素材や厚み等の必要詳細検討が必要
			開口部の断熱仕様	同上	建築設計時に素材や厚み等の必要詳細検討が必要
			基礎の断熱仕様		建築設計時に素材や厚み等の必要詳細検討が必要
			舗装材の選定	蓄熱しにくい舗装材の選定など	公園設計時に素材等の詳細検討が必要
		日射遮蔽	屋根等の形状	庇やバルコニーの深さ/形状により夏の日差しを遮り、冬の日を取り込む	建築設計時に形状や素材等の詳細検討が必要
			開口部の大きさ/方位など		建築設計時に配置等の詳細検討が必要
			カーテン・ブラインド等		建築設計時に素材や運用等の詳細検討が必要
			植栽による日射遮蔽	夏の木陰や気化熱による涼しい風。落葉樹の場合は冬の日を遮らない	公園設計時に既存樹木調査も兼ねた詳細検討が必要
	自然エネルギー利用	採光	ハイスイドライト	高窓からの安定した光の確保	建築設計時に配置等の詳細検討が必要
			吹き抜け	吹き抜けを介し下の階へも光を落とす	建築設計時にプランとあわせた詳細検討が必要
			方位	方位を考慮した日射の取り込み	建築設計時に方位を考慮した建物配置や開口部位置の検討が必要
		換気	自然風による換気・気温調整	開口部の位置や気圧差など空気の性質を活かし風が流れる設計	甲府盆地における卓越風（夏は南西、北西。冬は北西）への配慮が必要
			吹き抜け	吹き抜けを介し施設全体での風の流れ道をつくる	建築設計時にプランとあわせた詳細検討が必要
			全熱交換ユニット	新鮮な空気を室内に供給しながらエネルギーロスを減らす	設備設計の専門家も含めた詳細検討が必要
			ナイトバージ	夜の涼しい空気を家の中にため込み蓄冷	夜でも最低気温が高い県・地域では有効活用が難しい
		雨水・井戸水	雨水・井戸水を利用した散水	植栽への散水/舗装への打ち水等	タンクの容量やスペースの検討/タンクへのゴミ侵入対策等が必要
			雨水を利用したトイレ	排水洗浄水への活用	同上
	器具選定	高効率機器	高効率ヒートポンプ	従来より省エネルギーで運転可能なシステム機器の採用	設備設計の専門家も含めた詳細検討が必要
			照明のLED化	省エネルギー/長寿命/低発熱な照明器具の利用	デザイン面も含めた器具選定が設計時に必要
			節水型器具の選定	洗面・トイレなどの衛生器具	デザイン面も含めた器具選定が設計時に必要
			DCモーター型の換気扇	従来より省エネルギーで運転可能なシステム機器の採用	デザイン面も含めた器具選定が設計時に必要
	熱源	蓄熱・蓄電	運用時間を考慮した熱源利用	余剰エネルギーの蓄熱・蓄電	設備設計の専門家も含めた詳細検討が必要
			昼間の蓄熱および夜間の放熱	暖房負荷低減と室温の安定化が可能	素材などが制限される可能性があるため設計時に詳細検討が必要
	エネルギーマネジメント	学習	「つかう」「つくる」の見える化	エネルギー使用量のリアルタイム表示・共有システム/学習パネルなど	データを分析する専門家や、利用者に学んでもらうプログラム構築が必要
			人感センサーによる照明や換気の省エネ	未利用部屋の省エネ	運営計画との調整が必要
		運用管理	照度センサーによる照明の省エネ	時間帯や天気を考慮した省エネシステム	運営計画との調整が必要
創エネ	再生可能エネルギー	太陽光発電	太陽光を利用した室内照明灯	再生可能エネルギー活用による省エネ化	建物屋根上に設置する場合は必要スペース/屋根耐荷重など要精査
			太陽光を利用した屋外照明灯	再生可能エネルギー活用による省エネ化	デザイン面も含めた器具選定が設計時に必要
			太陽光を利用した井戸ポンプ	再生可能エネルギー活用による省エネ化	井戸掘削場所と日射条件の検討が必要
		風力発電	風力発電を利用した屋外照明灯	再生可能エネルギー活用による省エネ化	デザイン面も含めた器具選定が設計時に必要
		地中熱	地中熱ヒートポンプシステムによる暖房/給湯など	昼夜または季節を問わず安定している地中エネルギーの活用	イニシャルコスト/細かな温度調整が難しい
		バイオマス	廃棄物系バイオマス	廃棄物として排出された生物由来の再生可能な資源	甲斐市の方針要確認
			未利用系バイオマス	稲わら、麦わら、もみ殻等や間伐材といった未利用の資源	発生箇所が地域に広く分散し、収集・運搬・管理コストがかかる



【別紙4】

防災へ向けた課題整理等（例）

（仮称）篠原地区公園は、市役所、図書館、交番、消防署、小学校、中学校などの公共施設が集積するエリアに位置し、人口集中地区（DID）にも隣接する立地となっている。

甲斐市洪水ハザードマップによると、想定浸水深0.5～3mの区域であり、公園北側には水害時指定緊急避難場所・指定避難所である竜王小学校が近接している。

本公園は、多くの人が集う交流拠点であるとともに、子育て支援機能を持つ公園施設であることから、災害時に来園者や地域住民が一時的に避難できる場所（一時避難地）に位置付け、地域防災を補完するための整備について取り組むものとする。

項目	備考/検討課題など																																								
建物環境	○地震や水害時を考慮した建築構造を検討する必要がある																																								
	○洪水時の想定浸水高さを考慮した建築の階数/階高設定が必要																																								
	○授乳室や更衣室、ユニバーサルデザインの設置は被災時の観点からも設置が望ましい																																								
エネルギー面	○再生可能エネルギーや生活インフラ（井戸水の活用、マンホールトイレ、かまどベンチ等）の検討が必要																																								
	○断熱性・機密性に考慮し、室内温熱環境を一定に保ちやすい計画を行うことが望ましい																																								
運営面	○被災時における避難や意思決定等の円滑化のため定期的な職員研修や市民との避難訓練の実施が望ましい																																								
	（日中、夜間、施設利用状況等、様々な状況を想定し、実施することが望ましい。）																																								
	○担当者不在時にも備蓄品が使用できるよう保管場所、数量、配布ルールなどが誰でも理解できるマニュアル制作が望ましい																																								
	○男女のニーズの違いや子育て家庭等のニーズに配慮し、女性用品、乳幼児用品等の必要とされる物資について、あらかじめ一定程度を備蓄することが望ましい																																								
備蓄倉庫の位置	○子育て支援複合施設に設置する備蓄倉庫については浸水時に流されることがないように、2階以上に設置する必要がある																																								
	○被災による建物の倒壊や建具の破損を考慮し、敷地内の複数エリアに分散して備蓄倉庫を設けることが望ましい																																								
備蓄倉庫の仕様等	○被災時は大量の備蓄品を運ぶ必要があるため、台車が通れる出入口や通路の有効幅、段差等に配慮した計画が望ましい																																								
	○備蓄物の総重量に応じた床の耐荷重設定が必要																																								
	○備蓄品へのカビ対策として十分な換気/湿度対策が必要																																								
	○直射日光（紫外線）により備蓄品が劣化しないよう開口部等への配慮が必要																																								
備蓄倉庫の大きさ	○1日の最大利用者数500人程度*3日間分の食料/簡易トイレ等を想定した場合、下記目安により最低15~20㎡以上のスペースが必要と想定される																																								
	（小柄な人が運び出すことを考慮し、備蓄品の積み上げ高さは最大1200mm程度と仮定する）																																								
	【100名×3日分の目安】 <table><tr><th>種別</th><th>必要量</th><th>ケース数</th><th>1ケースあたりの量</th></tr><tr><td>食料</td><td>900食分</td><td>18ケース</td><td>50食入/ケース</td></tr><tr><td>水</td><td>1,800本</td><td>75ケース</td><td>500ml×24本入</td></tr><tr><td>トイレ</td><td>1,500枚</td><td>15ケース</td><td>100枚入/ケース</td></tr><tr><td>毛布</td><td>100枚</td><td>10ケース</td><td>10枚入/ケース</td></tr></table> 【500名×3日分の目安】 <table><tr><th>種別</th><th>必要量</th><th>ケース数</th><th>1ケースあたりの量</th></tr><tr><td>食料</td><td>4,500食分</td><td>90ケース</td><td>50食入/ケース</td></tr><tr><td>水</td><td>9,000本</td><td>375ケース</td><td>500ml×24本入</td></tr><tr><td>トイレ</td><td>7,500枚</td><td>75ケース</td><td>100枚入/ケース</td></tr><tr><td>毛布</td><td>500枚</td><td>50ケース</td><td>10枚入/ケース</td></tr></table> 【100名3日分の備蓄スペースイメージ】 食料18ケース トイレ18ケース 毛布10ケース	種別	必要量	ケース数	1ケースあたりの量	食料	900食分	18ケース	50食入/ケース	水	1,800本	75ケース	500ml×24本入	トイレ	1,500枚	15ケース	100枚入/ケース	毛布	100枚	10ケース	10枚入/ケース	種別	必要量	ケース数	1ケースあたりの量	食料	4,500食分	90ケース	50食入/ケース	水	9,000本	375ケース	500ml×24本入	トイレ	7,500枚	75ケース	100枚入/ケース	毛布	500枚	50ケース	10枚入/ケース
種別	必要量	ケース数	1ケースあたりの量																																						
食料	900食分	18ケース	50食入/ケース																																						
水	1,800本	75ケース	500ml×24本入																																						
トイレ	1,500枚	15ケース	100枚入/ケース																																						
毛布	100枚	10ケース	10枚入/ケース																																						
種別	必要量	ケース数	1ケースあたりの量																																						
食料	4,500食分	90ケース	50食入/ケース																																						
水	9,000本	375ケース	500ml×24本入																																						
トイレ	7,500枚	75ケース	100枚入/ケース																																						
毛布	500枚	50ケース	10枚入/ケース																																						
	【参考】株式会社レスキューナウ/防災用品カタログより引用																																								